

弔 辞

大阪府茨木市 岩村医院 岩村泰助氏

宮田君、いつかはこういうことも…と、かねてから危惧していた私にとって、そんな一番辛い日が、とうとう現実になってまいりました。

初めて君と出会ったのは今から77年も前の昭和12年4月、小学校3年生になったばかりのことでした。学級編成替えの結果、貴兄と同じクラスに初めて編入されたのでした。そして、この時から貴兄との付き合いが「あんたとわし」という仲となって始まったのであります。

それからは、貴兄の頭脳の明晰さ、勉強の出来栄もさることながら、鉄棒、跳び箱、相撲、果ては水泳にと、屋外スポーツにも並々ならぬ卓抜さを級友達に見せつけ、貴兄がまさにクラスの英雄児的存在となり、彼らからは羨望の的として、「宮田、宮田」と苗字だけの呼び捨てで尊敬されておりました。

さらに気付かされたことは、貴兄は非常に手先が器用で文字が綺麗、絵が上手、草野球でも球捌きが抜群で、バッターやランナー達を打ち取るのも巧妙。また、写生に出るとピカイチの絵を描いて戻ってくる。そして、その都度担任の先生が、「上手いなあ」と感心されていたのを覚えています。後に腕利きの外科医として名声を博した素地を、もうこの頃から身に付けていたようでした。

さらに、水泳も得意で、海水浴にもよくご一緒し、小学校の5、6年になってからは4、5人のグループで一艘の伝馬船を借り、湾口から数里の先にある児島まで艫を交替で操りながら、清澄な水面に来ると飛び込んで泳いだり、飽きると丸く船板に車座を作り、スイカをかじったりと少し野蛮な沖遊びをインターンの終わる頃まで必ず年一回は実行して楽し

んでおりました。こうして二人は互いに「あんたとわし」と呼び合いながら絆を深め合っていたものでした。

その後の進学による旧制宇和島中学校時代も、続いてちょっと経験したキナ臭い「貴様と俺」の時代もありましたが、やがて突入した暗い戦後の旧制松山高専時代も、不思議に一度もクラスを同じくする運命には至りませんでした。が、余暇の時間帯、とりわけ長期休暇で故郷の宇和島に滞在中の行動はこれまで通りの足跡を辿り、結果的に「あんたとわし」の仲に益々固い絆が作られていきました。

そして、そんな頃まで「将来は医者になろうや」などと二人で手を握り合ったり、固く誓い合ったりしたことなどは全くありませんでした。が、気付いてみればいつの間にか二人は、当然のように医学部進学コースに潜り込んでおりました。

その後、それぞれに所定の仕事を持つようになり、貴兄は大病院の理事長で院長先生、私はしががない町医者に明け暮れ暫し経た頃のこと、この私が他ならぬ貴兄に助けを求めざるを得ない大事態が発生したのであります。忘れもしない平成17年の春のことでした。これまで一度も病気をしない野猿のように元気だった私が、消化器に異常を感じ、現地の医師からS字結腸の軸捻転と診断されたのでした。

その後試みた内科的治療では、はかばかしい成果は得られず、もう観血療法に踏み切るしかないのかと悩んだ末、この病状について一番リーズナブルな説明をしてくれていた貴兄に、一か八か我が生命を託し、観血療法に踏み切るの

が最良の方法ではないかと決心し、思い切って手術を乞うたのでした。

結果は、「あんたとわし」の仲やないかと、貴兄の本当に温情あふれる返答を頂戴し、さらには献身的で、しかも陰徳のこもった的確な加療を得るという幸運に恵まれたのであります。

この時あまりにも凄腕の洗礼を受けた私の身体は、おかげさまで驚異的な回復を果たすこととなりました。院長回診の後には決まって再度病室を訪れてくれるこの大恩人と、あたかもかつての学生時代の夏休みの時のように、早速「あんたとわし」の昔に逆戻りをし、青春時代の再現という貴重な一時を入院中存分に耽溺し、分かち合える幸せまでも与えていただけたのでした。退院し帰阪後も私はすっかり元気を取り戻し、また元通りの野猿を演じ続けて今日に至っているのであります。

宮田君、本当にありがとう。今お別れしたらこの浮世ではもうあんたと金輪際再会する手立てはありません。

が、あんたに救われたお陰でまだ少しばかり残された私の余命のその先の世界では、少なくともお互いに魂だけはまた出会い、もう一度「あんたとわし」の間柄に立ち戻ることの可能性が絶対はないとは、誰しも断言することはできないでしょう。

今私は「かもしれない」、そんな行く末の僥倖を夢見ております。そうしながら、寂しいけれど、しばらくの間お別れすることにいたしましょう。それまでの間、さようなら。ゆっくりとお休みください。

合掌

～思い出のアルバム～

愛犬と一緒に



旧S棟増改築工事完成記念式典
平成13年11月26日



宮田先生自作の句
「古城のかげに匂える梅の花」



宮田先生の思い入れのある額
「一期一会」